

スーパーマーケット景気動向調査

2021年11月調査結果（10月実績）
（2021年11月22日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

11月調査（10月実績）結果概況

景気判断DIは前月と同水準で推移

10月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DIの現状判断は、前月から-0.9の41.7、見通し判断は前月から変わらず37.7となり、ともに前月とほぼ同水準で推移した。

経営動向調査では、売上高DIはややマイナス幅を拡大したものの、収益DIは前月水準での推移となった。月の後半から青果相場は安定したものの、畜産相場や水産相場の高値傾向により生鮮品仕入れ原価DIが9.5、原材料価格高騰による値上げにより食品仕入れ原価DIは11.6といずれも高止まりしている。また日曜日が一回多い曜日巡りであったが、緊急事態宣言解除もあり来客数DIは小幅に低下した。

カテゴリー動向調査では、内食需要の落ち着きや季節商材の不振を受けた生鮮品でDIのマイナス幅が大きくなった。また非食品カテゴリーは、衛生用品に前年からの反動減が続いている。（カテゴリー動向については最終ページに詳細を掲載）

景況感調査では、消費者購買意欲DIの現状判断がやや悪化しているが、そのほかのDIは前月から動きはなく、景気基調に大きな変化はみられなかった。（長期傾向についてはP11参照）

10月は緊急事態宣言が解除され、週末を中心に人流の変化による影響を受けたとのコメントがみられた。一方で足元の感染状況は小康状態となっているが、これまでの生活を急に変化させる消費者は少なく、当月は家庭内食品需要が落ち込む兆しは確認できなかった。しばらくは、内食需要の変化よりも、生鮮品や食品価格上昇の長期化が予想されることによる消費動向や、各種経済対策の実施による消費者行動の変化を注視していくことが必要となるだろう。

景況感調査

現状判断

景気判断DI 当月：41.7 (-0.9) 前月：42.6	消費者購買意欲DI 当月：42.0 (-2.8) 前月：44.8	周辺地域 競合状況DI 当月：42.5 (+0.2) 前月：42.3	店舗周辺地域 景気判断DI 当月：44.0 (-0.3) 前月：44.3
--	---	---	---

見通し判断

景気判断DI 当月：37.7 (0.0) 前月：37.7	消費者購買意欲DI 当月：40.1 (-0.2) 前月：40.3	周辺地域 競合状況DI 当月：40.3 (-0.6) 前月：40.9	店舗周辺地域 景気判断DI 当月：42.4 (+0.4) 前月：42.0
---	---	---	---

経営動向調査 経営状況

売上高DI 当月：-9.6 (-6.2) 前月：-3.4	客単価DI 当月：1.5 (-0.8) 前月：2.3	来客数DI 当月：-10.2 (-3.0) 前月：-7.2	
収益DI 当月：-8.7 (-1.3) 前月：-7.4	販売価格DI 当月：3.8 (-1.2) 前月：5.0	生鮮品仕入原価DI 当月：9.5 (-2.7) 前月：12.2	食品仕入原価DI 当月：11.6 (+2.3) 前月：9.3

カテゴリー動向

青果DI 当月：-18.4 (-15.8) 前月：-2.6	水産DI 当月：-9.2 (-7.2) 前月：-2.0	畜産DI 当月：-10.1 (-6.3) 前月：-3.8	
惣菜DI 当月：10.5 (-0.9) 前月：11.4	日配DI 当月：-0.2 (-0.1) 前月：-0.1	一般食品DI 当月：-0.3 (+3.3) 前月：-3.6	非食品DI 当月：-14.7 (+1.0) 前月：-15.7

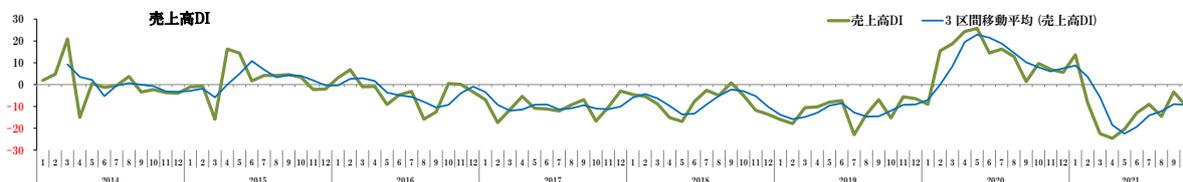
※DI値は前年同月との比較 / ()内は前月DIからの変化

結果詳細 I. 経営動向調査 (2014年1月～)

1. 売上高DI

当月やや低下

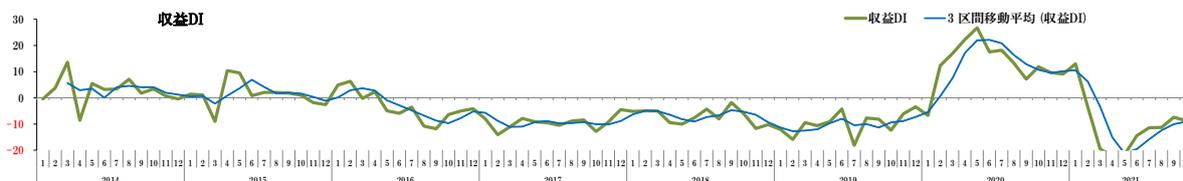
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高 (前月)	11.4	28.1	29.2	25.4	5.9	-3.4
売上高 (当月)	14.4	34.6	28.1	20.9	2.0	-9.6



2. 収益DI

当月わずかに低下

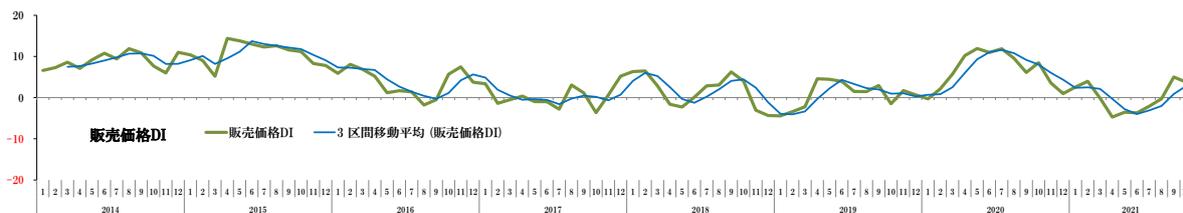
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益 (前月)	13.2	34.6	25.8	21.4	4.9	-7.4
収益 (当月)	15.4	31.5	30.2	18.1	4.7	-8.7



3. 販売価格DI

小幅に低下も2か月連続のプラス

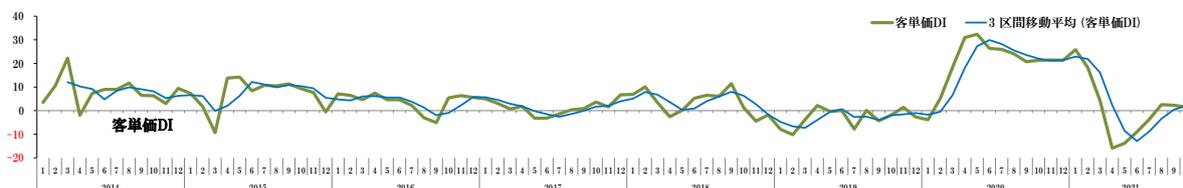
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格 (前月)	0.0	10.3	59.5	30.3	0.0	5.0
販売価格 (当月)	0.0	11.2	63.2	25.0	0.7	3.8



4. 客単価DI

ほぼ横ばい推移も3か月連続のプラス

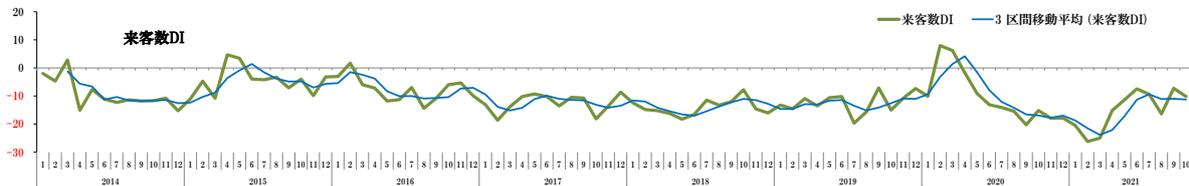
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価 (前月)	1.1	24.9	38.9	34.1	1.1	2.3
客単価 (当月)	0.7	25.5	43.1	28.8	2.0	1.5



5. 来客数 DI

小幅に低下し二桁マイナス圏

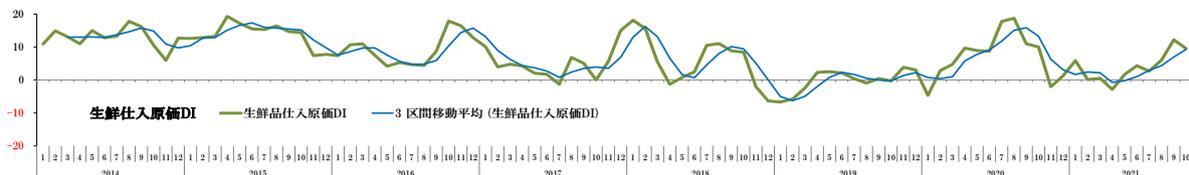
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	11.5	35.0	27.9	22.4	3.3	-7.2
来客数 (当月)	10.5	42.8	25.7	19.1	2.0	-10.2



6. 生鮮仕入原価 DI

小幅に低下もプラス圏で推移

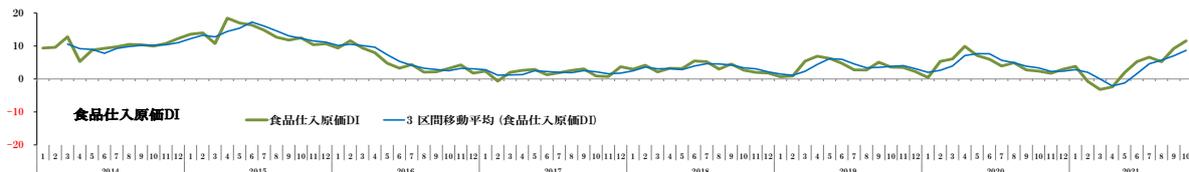
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	1.7	7.2	37.8	47.2	6.1	12.2
生鮮仕入原価 (当月)	2.1	7.6	47.2	36.1	6.9	9.5



7. 食品仕入原価 DI

小幅に上昇し二桁プラス圏で推移

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	1.7	7.2	47.0	40.9	3.3	9.3
食品仕入原価 (当月)	2.0	5.4	40.3	49.0	3.4	11.6

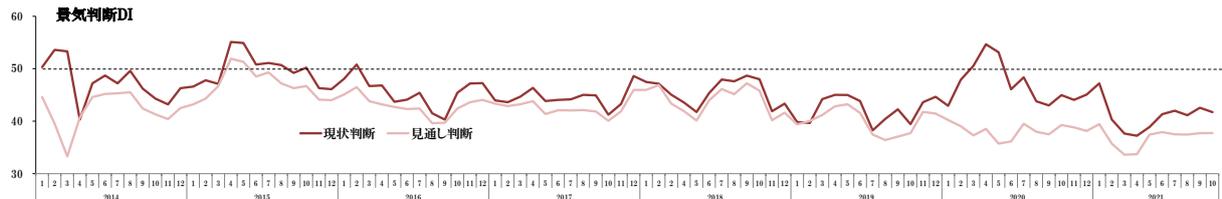


II. 景況感調査 (2014年4月～/周辺地域景況判断 2010年4月～)

1. 中核店舗景況判断 DI

現状判断は小幅に悪化、見通し判断は前月と変わらず

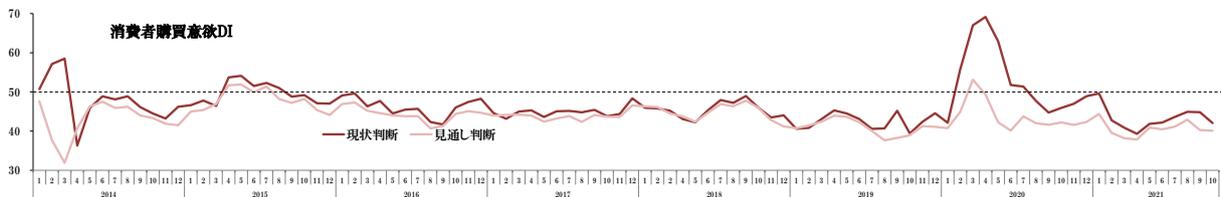
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景況判断 (前月)	5.9	27.0	57.8	9.2	0.0	42.6
【現状】景況判断 (当月)	5.8	29.2	57.8	6.5	0.6	41.7
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景況判断 (前月)	8.6	36.2	50.8	4.3	0.0	37.7
【見通し】景況判断 (当月)	7.2	39.2	49.0	4.6	0.0	37.7



2. 消費者購買意欲 DI

現状判断は小幅に悪化、見通し判断は横ばい

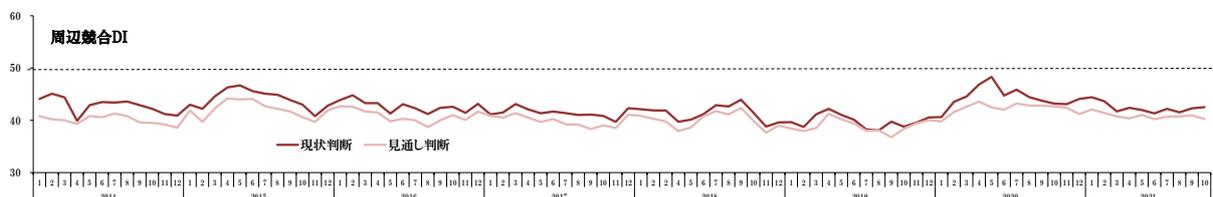
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲 (前月)	2.2	25.0	64.7	7.6	0.5	44.8
【現状】購買意欲 (当月)	2.6	33.1	57.8	6.5	0.0	42.0
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲 (前月)	3.2	36.2	57.3	2.7	0.5	40.3
【見通し】購買意欲 (当月)	3.9	36.4	55.2	4.5	0.0	40.1



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状判断、見通し判断ともに前月から横ばい

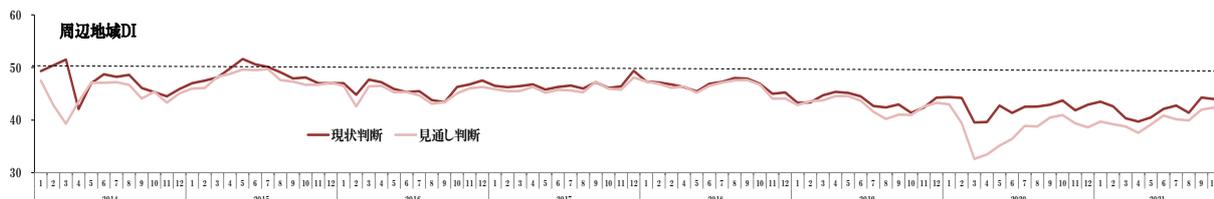
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況 (前月)	5.4	22.2	70.8	1.1	0.5	42.3
【現状】競合状況 (当月)	3.2	26.6	67.5	1.9	0.6	42.5
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況 (前月)	5.4	27.0	65.9	1.6	0.0	40.9
【見通し】競合状況 (当月)	4.5	31.2	63.0	1.3	0.0	40.3



4. 中核店舗周辺地域景気判断DI

現状判断、見通し判断ともに前月から横ばい

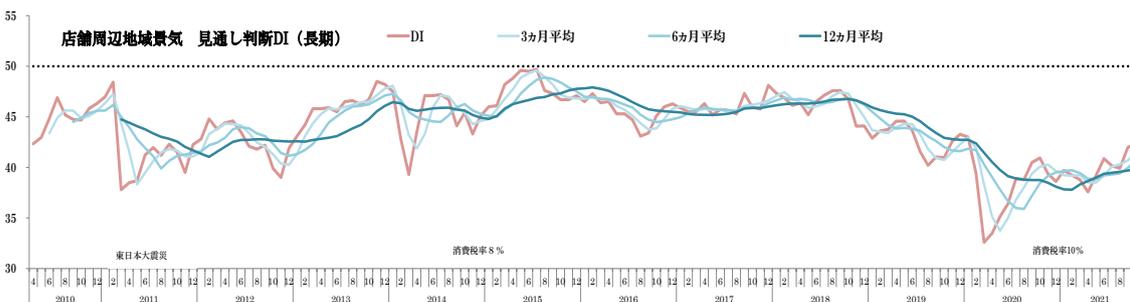
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気 (前月)	2.2	22.8	70.7	4.3	0.0	44.3
【現状】地域景気 (当月)	1.3	22.7	74.7	1.3	0.0	44.0
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気 (前月)	2.2	31.5	62.5	3.8	0.0	42.0
【見通し】地域景気 (当月)	1.9	29.2	66.2	2.6	0.0	42.4



・中核店舗周辺地域景気判断DI 長期傾向 (2010年4月～)

周辺地域景気判断DIは、2011年3月の東日本大震災以降低迷を続けていたが、12年11月から16ヵ月にわたる改善が続き、14年3月には現状判断DIが51.5を記録した。14年4月の消費税率8%への引き上げにより、大幅に悪化したものの、その後徐々に持ち直しをみせ、2015年5月には現状判断DIは51.6にまで達し、調査開始以来の最高値を更新した。

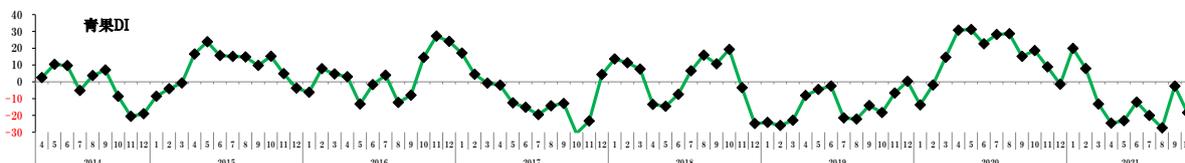
しかしこれをピークに、その後15ヵ月間にわたり悪化傾向が続き16年9月には、現状判断DIは43.4まで低迷した。以後方向感の乏しい推移が続いていたが、18年の後半から悪化傾向が顕著となり、徐々にその水準を切り下げており、19年7月には現状判断DIは42.3まで低下した。20年2月に大幅に悪化したのが、5月から10月まで持ち直しの動きが続いた。その後21年2月からは悪化するも、5月以降は小幅ながら改善傾向が続いている。その後、9月に大幅な上昇をみせ、各移動平均線を上抜きし、上昇トレンド入りを示唆している。



Ⅲ. カテゴリー別動向

1. 青果DI：-18.4（不調）

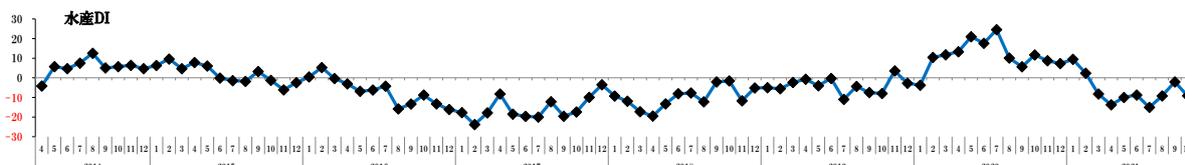
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果（前月）	10.4	30.6	26.0	24.9	8.1	-2.6
青果（当月）	23.8	38.4	27.8	7.3	2.6	-18.4



月の前半では夏季天候不良による相場高が続いていたが、その後相場が安定した地域が多かった。気温が高めに推移したことで、ネギや白菜、菌類をはじめとする鍋物関連の動きが悪かった。これまで保存が利く野菜として好調に推移していたタマネギやじゃがいもなど土物類には反動減もみられた。国産果物はみかんやカットフルーツを好調とする店舗が多いが、リンゴは供給不足により不調となった店舗もみられた。切花は前年に比べ販売が大きく伸びている。

2. 水産DI：-9.2（やや不調）

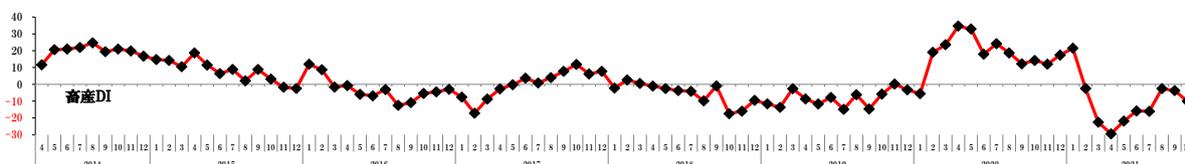
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産（前月）	7.0	31.6	32.2	21.1	8.2	-2.0
水産（当月）	6.7	48.0	27.3	11.3	6.7	-9.2



生魚の入荷が不安定で、販売に苦労した店舗が多かった。気温が高めに推移したことでタラや牡蠣など鍋関連商材の動きが悪かった。輸入魚介類（鮭・えび・タコなど）や魚卵・珍味は価格上昇しており、販売数量を落とした店舗が多い。戻りカツオは前年に比べ水揚量が回復し好調な販売動向となった。緊急事態宣言の解除により週末を中心に肉食需要が落ち着き、刺身類はやや低調、冷凍加工品も伸び悩んだ店舗が多い。

3. 畜産DI：-10.1（不調）

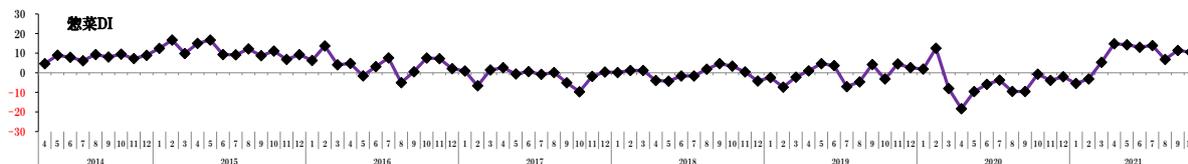
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産（前月）	10.4	28.9	32.9	20.8	6.9	-3.8
畜産（当月）	13.2	38.4	27.8	16.6	4.0	-10.1



緊急事態宣言の解除による肉食需要の落ち着きに加え、国内産、輸入品共に価格高騰が続いており、販促を打ちにくく、伸び悩んだ。牛肉では価格上昇が続く輸入牛が不振で、比較的価格が安定した国産牛が動いた店舗もみられた。豚肉は引き続き高値での推移に加え、鍋の需要が減少し不調となった。鶏肉も価格が上昇傾向にあり伸び悩んだ。ハム・ソーセージなど加工肉は前年好調の反動で不振となった店舗が多い。

4. 惣菜DI：10.5（好調）

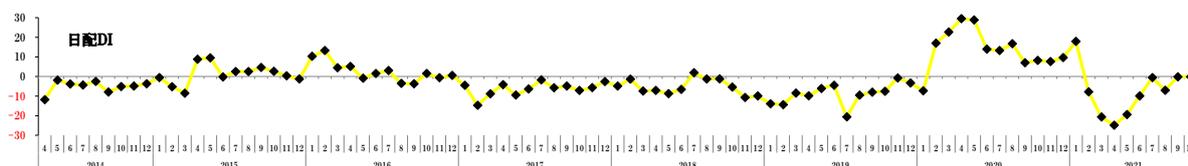
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	3.6	13.6	29.0	41.4	12.4	11.4
惣菜（当月）	3.3	14.7	32.7	35.3	14.0	10.5



外気温の影響か、寿司類や揚げ物が好調とのコメントが多い。月前半は、野菜相場の高騰により、サラダ関連惣菜が好調となった。近場への行楽や、小規模イベントの再開により、弁当類も好調に推移した。夕方以降の人流の増加を見越して、製造量を増やした店舗もみられた。引き続き、家飲み用の、焼鳥やつまみ類も堅調に推移している。

5. 日配DI：-0.2（やや不調）

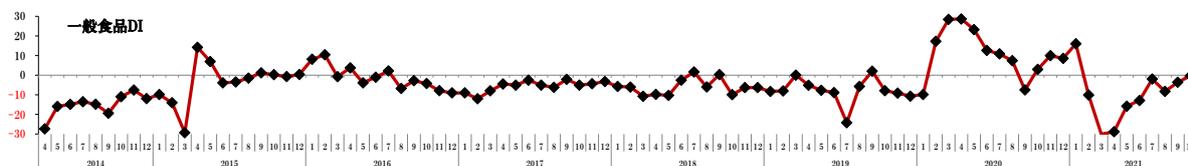
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	5.2	28.3	34.7	25.4	6.4	-0.1
日配（当月）	7.9	23.7	38.8	20.4	9.2	-0.2



利便性が定着した冷凍食品や、デザート類が好調に推移した。また前年より気温が高く推移した影響でアイスや飲料も好調となった。和日配は、こんにやく、練り物、豆腐など鍋物商材が伸び悩んだ影響で低迷した店舗が多い。昨年好調だった納豆などの発酵食品は、反動減もみられている。

6. 一般食品：-0.3（やや不調）

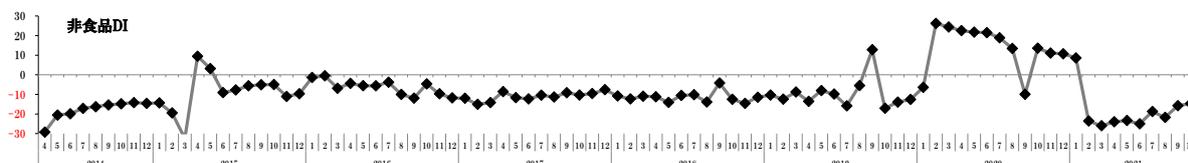
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	9.8	27.7	35.8	20.2	6.4	-3.6
一般食品（当月）	7.8	23.5	39.2	20.9	8.5	-0.3



緊急事態宣言が解除されたことで、保存性の高い食品（カップ麺、パスタなどの乾麺類、レトルト類、缶詰など）に反動減がみられた。自宅調理需要は落ち着いているものの依然として高く、値上げのあった油や調味料は単価増もあって好調。気温が高く推移したことで、水、飲料は好調だが、ホットメニューは伸び悩んだ。家飲み需要が継続し、酒類や珍味などのつまみ類は引き続き好調に推移。新米の動きが悪いとのコメントがみられた。

7. 非食品 DI：-14.7（不調）

回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	23.5	35.3	25.9	11.2	4.1	-15.7
非食品（当月）	20.0	32.7	36.7	7.3	3.3	-14.7



マスクやハンドソープ、除菌関連などの衛生用品で特需となった前年からの反動が続いている。ティッシュやトイレットペーパー、キッチンペーパーなどの紙製品についても反動減が大きい。日用雑貨、家庭雑貨は堅調に推移している店舗が多い。値上げのあったタバコ類には反動減もみられた。

カテゴリー別 DI による好不調判断

かなり好調： ～ 20 好調： 20 ～ 10 やや好調： 10 ～ 0
 やや不調 ： 0 ～ -10 不調： -10 ～ -20 かなり不調： -20～

2021年11月調査（10月実績）キーワード TOP3

1. 気温が高く季節商材不調
2. 緊急事態宣言解除による客数減と原価等上昇による単価増
3. 日曜日が前年より1日多い

（参考）2020年11月調査（10月実績）キーワード TOP3

1. 家庭内消費需要堅調（客単価上昇）
2. 気温低下（季節商材好調）
3. 前年からの反動（消費税率・台風・プレミアム商品券）

スーパーマーケット景気動向調査 集計数

10月実績速報版 154社
 9月実績確報版 185社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 tokei@super.or.jp